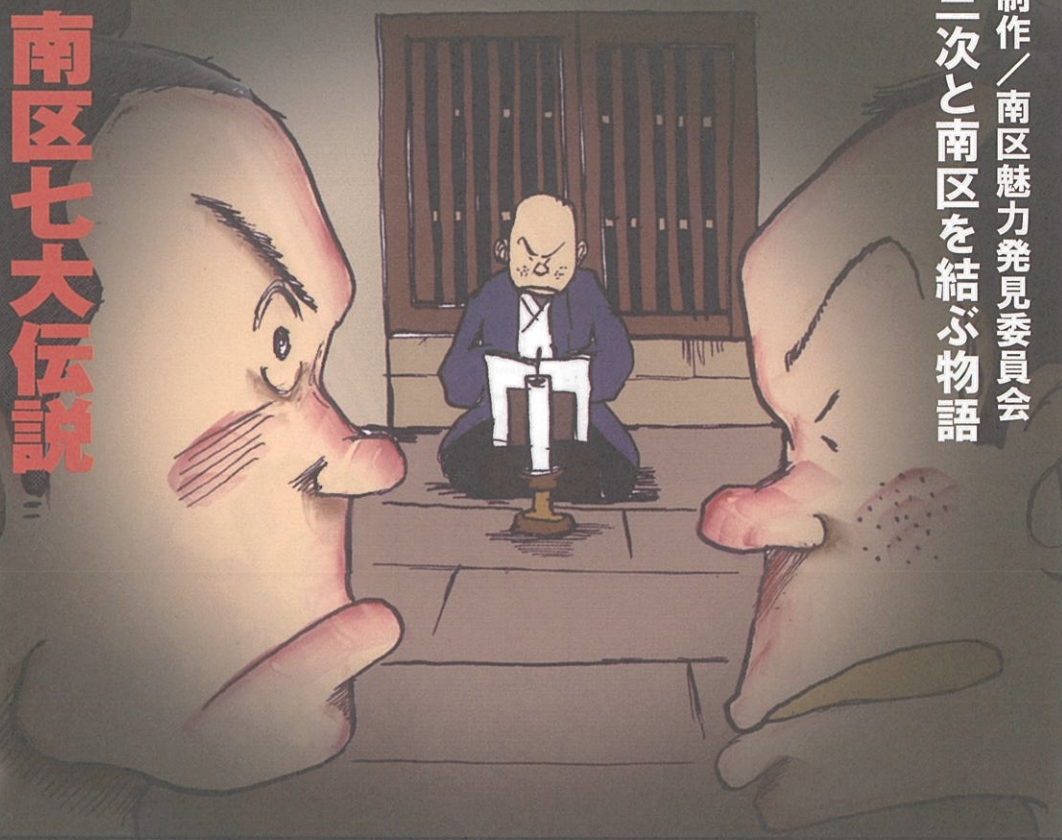


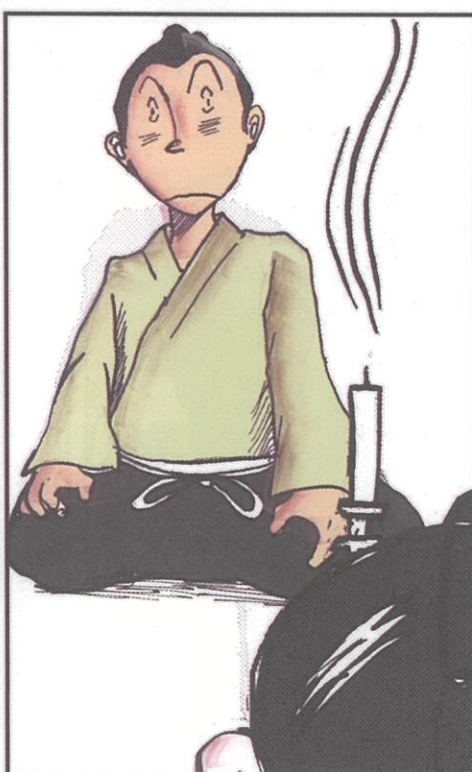
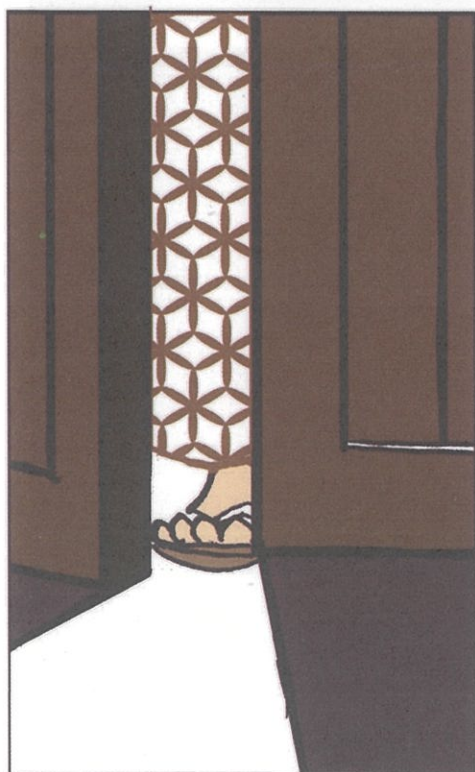
制作／南区魅力発見委員会
三次と南区を結ぶ物語

妖怪伝説

南区七大伝説



時は寛延三年
江戸時代中期
三次に住む
稲生平太郎と
相撲取りの権八は
互いの勇気を
試すため
比熊山で
百物語に
挑んだ
百話の怪談話を
語り終えたとき
怪異が現れる
といわれるが……



なんじやい 結局
何もでんかったのう

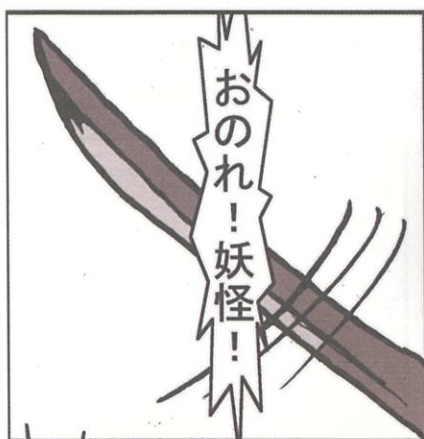
妖怪もワシらの
強さに恐れをなしたんじや

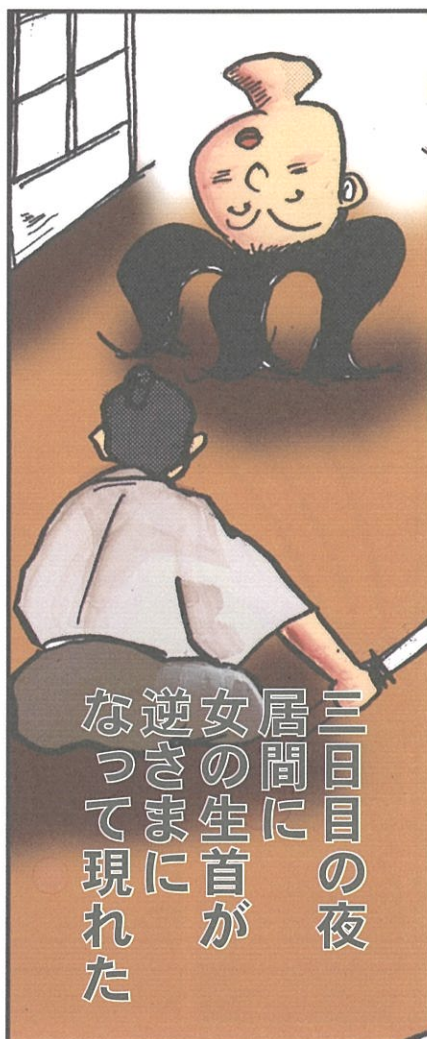
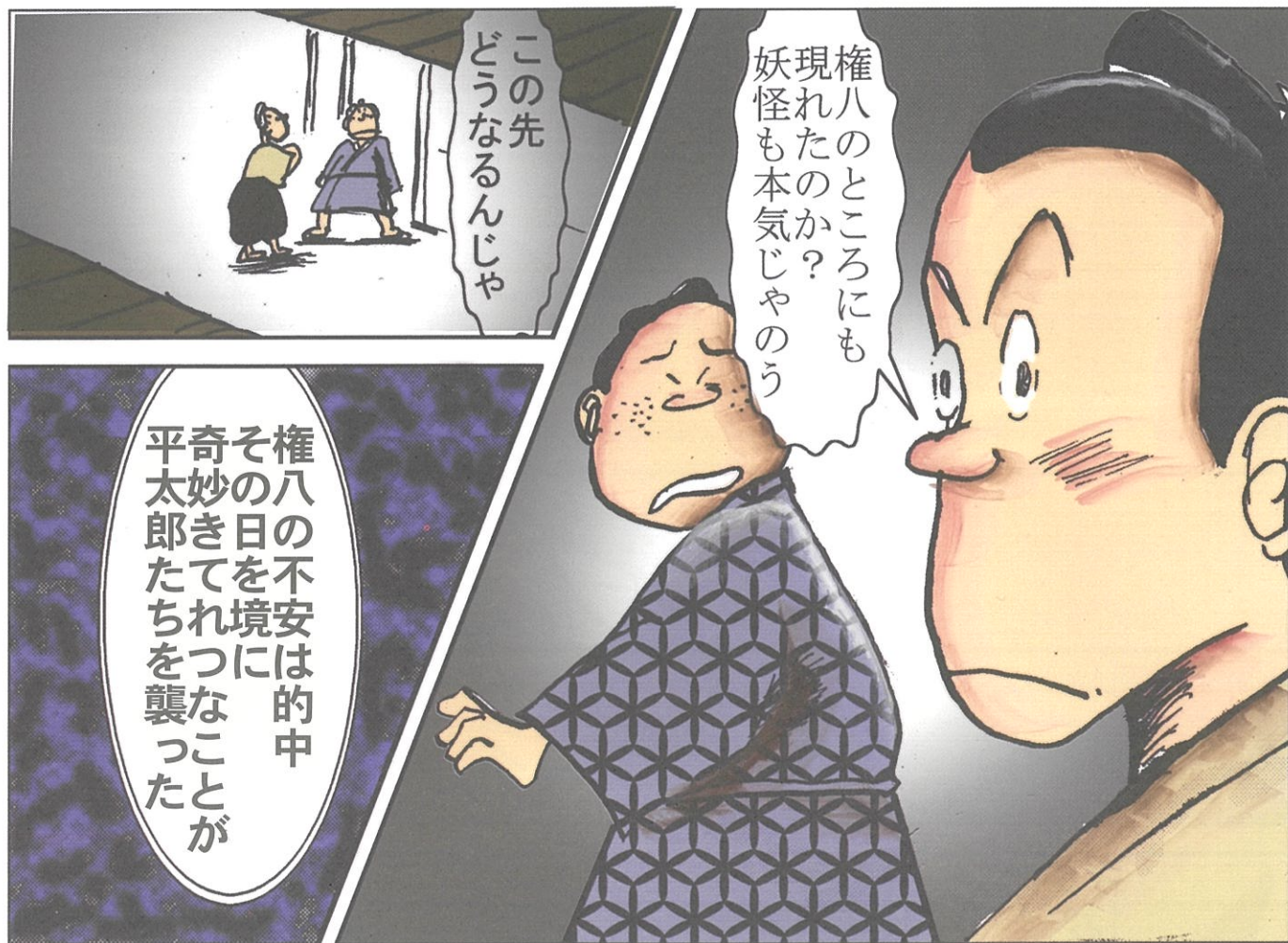
それから二ヶ月は
何事もなく
静かに時は過ぎた

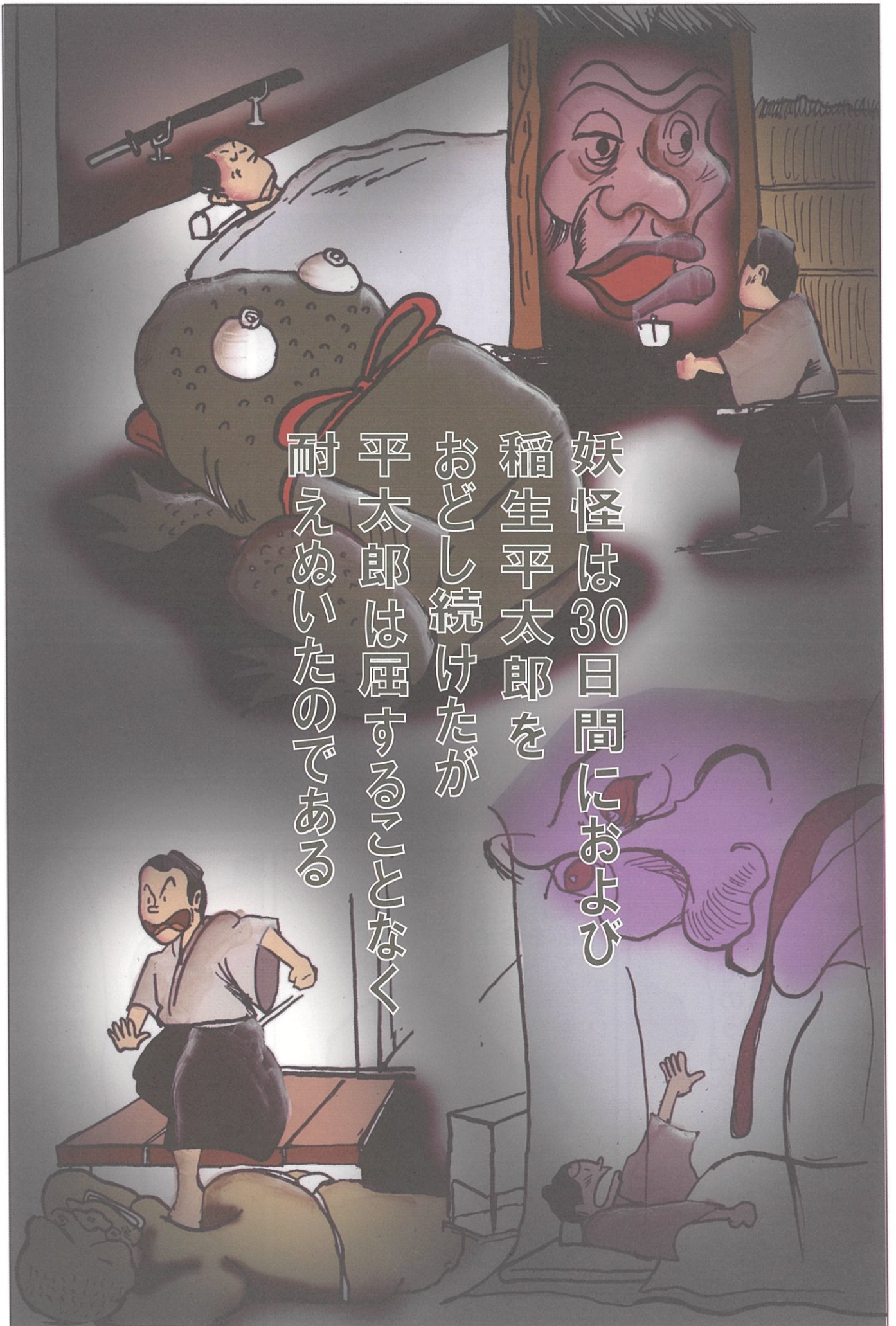
ある夜
火がついたように
障子が明るくなった

何じやこの光は
誰かおるんか？

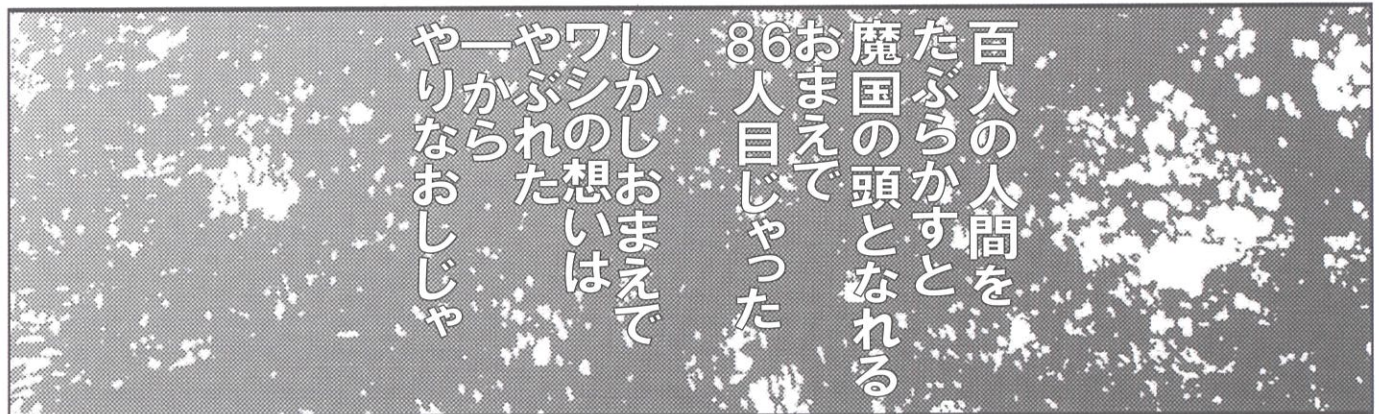
にゆう







妖怪は30日間におよび
稲生平太郎を
おどし続けたが
平太郎は屈することなく
耐えぬいたのである





平太郎は、後に
広島に移り住み
広島藩に仕えた



五郎佐衛門は
多くの妖怪たちに
かごで送られていった
そして30日間におよんだ
様々な妖怪の出現は
その日を境になくなった

山本五郎佐衛門から
もらったとされる木槌は
東区の國前寺に
伝えられている



また稲生平太郎こと
稲生武太夫自身は
南区の稲生神社に
祀られている

江戸時代の
実在人物が
祭神として
あるのも珍しく
武太夫にあやかっ
魔よけ厄よけを
願って多くの人が
お参りする



稲生武太夫を祀る稲生神社

南区の妖怪伝説

南区魅力発見委員会風土記編さん部会 増田義法

▼稲生神社の祭神

広島駅から市内電車に乗り、南区・稲荷町電停で降りると、目の前に鉄筋3階建ての稲生神社がみえる。3階部分が社殿になっている。

赤い鳥居をくぐり、石段を登ると、途中に立てられた幟に「ゲゲゲの鬼太郎」など有名な漫画家水木しげる氏、作家で妖怪研究家として知られている荒俣宏・京極夏彦両氏の名前がある。スポーツ選手の名前も見える。さらに登って行くと手水の上には、稲生武太夫と「開運お守り槌」の縁起が記されている。



この神社には、五穀豊穡、商売繁盛の神として信仰されている豊受大神（とようけのおおかみ）と大国主命（おおくにぬしのみこと）、それに妖怪退治で知られている稲生武太夫（いのうぶだゆう）が祀られている。江戸時代中期の実在人物が祭神としてあるのも珍しい。武太夫が数々の妖怪を退治したことにあやかって、魔除け、厄除けを願って沢山の人がお参りする。強運を招く負けない神としてご利益があるということからスポーツ選手の参詣も多いそうである。

▼稲生武太夫

寛延2年（1749年）4月と5月、16歳の稲生武太夫（当時 平太郎）と相撲取りの権八が三次（三次市）の比熊山に夜中に登って肝だめしをしたり、百の妖怪話をした。その後の7月1日から、夜になると妖怪が現れた。一日目は化け物が毛だらけの大きな手でつかみかかってきた。武太夫が平然と太刀をかざすと、化け物は消えた。魔王の繰り出す妖怪は毎夜姿がちがひ、責

める手口もちがっている。ある夜は、女の首から手が出たり、意味不明の声が出たりした。武太夫はそれにじっと耐え、いささかも動じない。30日目になると、ついに魔王の山本（さんもと）五郎左衛門が「あなたの豪胆さに参りました」と降参をして、木槌を授けたという。



▼その後

稲生武太夫はその後、浅野藩にも招請を受け、数年間広島にいた。また、全国を武者修行もしている。

稲生武太夫の話は自伝と伝えられる「三次実録物語」（みよしじつろくものがたり）、それを底本とした「稲生怪物録」（いのうものけろく）などが残っており、物語をもとにかかれた「稲生怪談の由来併（ならびに）画」などいくつかの絵巻物がある。

魔王が残したと言われる木槌は東区の國前寺に伝えられ、稲生家の墓は中区本照寺の境内にある。三次市の比熊山東麓の三次法務局構内には、昭和6年に建てられた稲生武太夫の碑がある。かつて、ここに武太夫の屋敷があったという。

南区七大伝説



発行 初版：南区魅力発見委員会
（南区役所地域起こし推進課内）
重版：南区役所地域起こし推進課
〒734-8522 広島市南区皆実町一丁目5番44号
TEL 082-250-8935 FAX 082-252-7179